

様式1 01-2 令和6年度 山梨県立盲学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針		自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。	
本年度の重点目標	1 連続性を重視した学びの充実	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 一人一人に応じた指導の充実		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 自立と社会参加に向けた取組の充実		C 不十分である。(4割以上)
	4 視覚障害教育相談の充実		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立盲学校校長 白倉 明美

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価				年度末評価(令和7年1月23日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	- 確かな学力を育てる指導の実践と自ら学ぶ態度の育成 - 将来を見据えたキャリア教育の充実と進路の実現	- 授業の「手引き及び指導事例集～視覚障害教育の専門性の向上と継承～」を生かした授業力の向上 - 教科横断的で学部の特を越えた学び合い活動の充実 - キャリアパスポートによる自己理解、自己管理力の向上	- 手引きの活用状況 - 教育課程の反省 - キャリアパスポートの作成及び活用状況	A	弱視教育グループ作成の手引き書を参考に授業を行い、グループ研究の中で意見をもち合うことでそれを授業に生かすことができた。歩行指導や点字指導も手引きにより段階的に行うことができた。適切な実態把握にも手引きが役立った。学びの繋がりにについては、各学部及び学年間各教科・科目間の連続性を意識した授業が構成できている。専門基礎科目で得た知識をもとにした専門科目の修得へと段階的な積み上げができています。キャリアパスポートの活用については、書式に写真を添付することで行事が振り返りやすくなり、自己評価に活用できた。また、進路については、外部模試の結果などを参考に、進路指導部と連携して、大学進学に必要な進路指導を行うことができた。理療科においては、検校祭や校外臨床実習での取組を通して、専門的な知識と技術を主体的に学習することができた。	
2	- 障害特性に応じたICT機器を積極的に活用した授業の改善 - 障害特性に応じた、専門家を積極的に活用した指導の実践 - 教員の指導力向上への取組	- 教育DXの推進とそれを生かした授業改善 - 視能訓練士、歩行訓練士等専門家の活用と個別の教育支援計画、個別の指導計画への合理的配慮等の反映、自立活動の充実 - 教員等育成指標に応じた研修の充実、専門性の向上	- 活用能力調査 - 実践事例の整理 - 個別相談等の記録 - 相談の記録 - 研修計画や研修履歴の把握 - 研修報告	A	- 実態に応じiPadなどのICT機器を積極的に活用して授業を行うことができた。幼児児童生徒の実態に即してICT支援員に意見をもらいながらICT機器を活用した授業実践を行えた。外部専門家の活用については、視能訓練士や歩行訓練士の見立てを担当集団で共有し、指導実践に役立てることができた。視能訓練士からの助言を生かし、個々の視機能に応じたアセスメント及び合理的配慮等の資料を作成することができている。職員研修については、視覚障害教育に関する基礎研修を校内で計画的に行うことで、新任者の学びのみならず、経験のある教員においても必要に応じ学び直しができた。 - ネット投影機等、最新の視覚補助機器を授業に活用することができた。効果的に補助機器を活用できるように事例集をまとめていきたい。外部専門家については、中で作成した指導手引書も利用することで効果的に活用できた。これによりセメントや歩行指導等が充実した。教員の指導力向上に関しては、視覚障がい教育研修会を基盤を丁寧に確認することができた。研修を授業に汎化するためにも、全員が直接の点字指導場面に関わられるようにしていきたい。	
3	- 社会性の涵養、自主性の伸長を目指す交流及び共同学習の充実 - 社会の状況に対応し、適切に活動する自己管理能力の育成	- 自然体験や社会体験等、体験による様々な感覚を生かした外界認知 - 学校間交流・地域交流での集団活動体験及び実態に応じた共同学習の推進 - 自立活動の充実	- 教育課程の反省 - 推進会議でのまとめ - 学校評価アンケート - 個別の評価の分析 - 事例研究	A	- 交流及び共同学習は、感染症対策をしながら様々な形態(直接及びオンライン)で交流ができ、学び合いや関わり合いによりその目的を達成することができた。体験学習では、避難訓練や防犯教室等、様々な災害を想定した訓練を行い、日常生活での危険の回避や災害時の対応について安全教育を推進することができた。現場実習やインターンシップの事前や事後学習においては、社会に出た時の準備や対応などについて指導することができた。理療科では、特別講座や施設所見学などを通して様々な観点や価値観を学ぶことで、他者理解が進み、施術者としてふさわしい態度や人間性を育てることができた。体育的な取組では、視覚障害スポーツを題材として採用することで、生涯スポーツに繋がる取組を推進することができた。 - 共同学習に重点を置いた交流を推進できた。オンラインでの交流も定着し、授業活用への幅が広がった。他者視点を効果的に用いられるよう交流の実施回数や期間についても検討していきたい。地域交流については、ボランティア推進協会やシェアクラブと協働する活動ができた。今後、継続的に地域と繋がるようコミュニティスクールを生かしていきたい。体験学習としては、鉄道体験やトラック体験など、日常経験できない環境が設定できた。核となる体験を系統的に実施できるように適宜行事の検討を行っていきたい。	
4	視覚障害教育相談の推進	- 早期教育の充実及び担任支援による専門的対応力の維持・向上 - 関係機関や専門家と繋がった継続性のある相談支援体制の整備 - 情報発信及び社会的ニーズの把握	- 相談評価アンケート - 弱視教育連絡協議会記録 - 学校評価アンケート - 外部専門家指導記録 - 連絡会議 - ブログやHP等広報 - 実地調査 - 学校評議員の助言	A	- チームで教育相談を行い、事例をととして研修を深められた。全国弱視障害早期教育研究会や、全日本盲学校教育研究会、視覚障害教育発達研究会、日本弱視教育研究会において、本校の教育相談の実践を発表し、全国の視覚障害教育の研究活動の活性化や専門性の向上に寄与した。情報発信については、早稲ひとみネット等により各関係機関との連携を深めた。実習先に見え方のためのサポートハンドブックを配付したことで、視覚障害のある対象者に合わせた支援をしていただくことができた。 - 幼児期等、早期の教育相談の充実により、幼稚園や小学部への入学につながるケースが増えた。今後も選ばれる学校となるようこの取組を充実させていきたい。弱視学級支援は、合同学習会など、コロナ前以上に近い参集の形態で実施ができ、参加者の学び合いが深められた。普通科や理療科への進学に係わる進路の情報も積極的に発信していきたい。広報の取組としては、パンフレット・広報を有効に活用することや、報道機関からの取材が例年以上にあり、学校をピーアールできた。	

学校関係者評価	
実施日（令和7年2月19日）	
評価	意見・要望等
4	・体験や交流をして、自立に向けた教育活動が計画的に行われている点を高く評価したい。 ・弱視教育グループ作成の手引書等の共有により、グループ研究を深めながら教育の専門性の向上及び教科横断的な授業課程が為されていることを高く評価する。学部の間垣を越えた体験学習は盲学校独自の取組を反映させてやすく、今後も積極的な取組に期待します。進学に関する寡な取組や理療科との連携が進んでいることも評価している。 ・「いゆる」学習だけでなく、日常的な実践的な教育も多く、学校を卒業した後の社会的な関わりが意識されており、素晴らしいと思った。文字が書ける、計算ができることも大切だが、人とうまく関わっていけるか、自立した生活がおくれるか、がより大切だと思う。
4	・ICT機器を活用した授業が積極的に行われている点を高く評価したい。特に幼児期からタブレットを活用した授業が実践されていることに感謝を受けた。 ・ICT機器の積極的な活用だけでなく、盲学校独自の機器活用の充実が好評の理由である。特に、網膜投影機を生かした授業は画期的である。日頃の授業やその他の機能において弱視児童生徒への授業面での活用において、公立施設や大学と連携して実施したことも評価値する。 ・ICTやPD等積極的に進めて欲しい。 ・新しいデバイスには必ずしも児童生徒に良いものか、使いこなせるものかどうかを慎重に検討しながら、試みということではとも良いことだと思う。試みながらより良い状況で活用していくことが大切である。また、オンライン授業も良い試みであると感じた。
4	・学校間交流81回、地域交流12回という成果を高く評価したい。今後も引き続き積極的に交流活動を行い、生徒たちの成長につなげていきたい。 ・交流及び共同学習を活性化によって、充実していることが回数と内容から窺えた。その点を高く評価したい。体験学習で児童生徒の関心に沿った内容を積極的に取り入れながらも、実生活での自立につながる成果の達成に努めている。また、地域交流や体育的な取組でも大きな成果が見られた。それに加え園内履や海外履での大学連携や作品交流等も学校に含みたい。 ・学校間交流が多いことが良い。今後も交流事業を大切にして欲しい。 ・特別支援学校は閉鎖的なイメージになりがちであるが、児童生徒の安全を保ちながら、地域や他校との交流を活性化されていることが良い。盲学校の児童生徒は皆、学校が大好きで、コミュニケーション力が高くなる。 ・幼少期から様々な対人交流があることで、障害の者あるいは者も相互理解ができるようになる。盲学校の実践イノベーショングループが進んでいることを感じる。
4	・チームで教育相談を行い、研修を深められている点や報道機関と連携し、情報発信に努めた点などを高く評価したい。今後も効果的な情報発信に取り組まれることを期待する。 ・専門教育を行う上で、チームで教育相談にあたる姿勢を大切にしており、学内外での充実した実践を広く視覚支援教育の普及につなぐ、各種の研究会において発表を重ねている点を高く評価したい。「見えにくい」のサポート・ワンストップの普及や促進の取組や報道を通しての学校のPR視覚障害早期教育普及会の理解促進に広くつながっている。特に、全国視覚障害早期教育研究会での発表は盲学校の歴史からのもっと長年に及ぶ継続的な取組を積極的に伝えることができ、これは特筆すべきことである。 ・相談一課が多岐にわたる大変だが、学校全体として取り組んでいって欲しい。 ・教育相談一課では、毎回積極的に連携していただけており、ありがたいと感じる。今後も継続してお願いしたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2) 学校関係者等評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者等評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。